別記第1号様式(第7条関係)

平成３０年８月１日

福島町議会議長　　溝　部　幸　基　　様

福島町議会議員　溝　部　幸　基　㊞

研　修　成　果　報　告　書

福島町議会議員の研修に関する条例第7条の規定により、次のとおり成果を報告します。

記

1　研　修　日　時　　平成３０年７月3日（火）
午後１時～午後４時３０分

2　研　　修　　先　　札幌市　「札幌コンベンションセンター」

3　研　修　目　的　　平成３０年度北海道町村議会議長会主催議員研修会

4　研修成果(考察)

【研修会講演内容】

（１）午後１時１０分～午後２時４０分
「明治維新から150年、現在そして未来を考える」
歴史家・作家　加来耕三 氏

（２）午後３時００分～午後４時３０分
「現代日本政治と政局の行方」
岩井奉信　日本大学法学部教授

（１）「明治維新から150年、現在そして未来を考える」

歴史家・作家　加来耕三 氏

開口一番、「政局の先行きが見えないことからか、このところ歴史の講演を依頼されることが多くなってきている、自分で言うのもなんですが、加来耕三の講演は、二度とは言わないが一度は聞く価値がある」と始まった。（残念ながら？私は初めてで、テレビでも見たこともないし、著作も読んだことがなかった。）我々は、小中高と繰り返し歴史を学んできているが、「わかっているようで、何もわからない」、これが日本人の歴史認識だとして、「太平の眠りを覚ます上喜撰（じょうきせん：蒸気船）たった四杯で夜も寝られず」との川柳があるように、驚天動地、上を下への大騒ぎをして驚いたと言ってきたが、「何に驚いたのでしょうか？」との問いかけから始まり、小中高の教育では、歴史の真実を掘り下げて教示することができず、NHKの大河ドラマをはじめとしたテレビや映画、歴史小説等で、興味深く、面白おかしく脚色され史実とはかけ離れた情報が蓄積され普通の日本人の歴史認識になっているとの見方のようである。

「四杯の蒸気船で驚いたこと：軍艦の大砲が江戸に届く能力がある」が、明治の画期的な改革の起因となり１５０年後の今日に繋がっているのだという壮大な歴史観？を否定する知識もないが、小中高の歴史教育・TV等の役割を全否定することにもならない。

歴史に関わった本人ですら、万人が納得する史実として認識できるかは、甚だ疑問であり、そのことは、自分に置き換えて身近な出来事をどう認識できているかを考えてみると明白であると思う。過ぎ去った歴史は、俯瞰の視点を変えることで大きく変わる可能性があることを認識しておくべきであると思うし、難しいことだが、日々の出来ごとも、できるだけ大きく俯瞰することを心掛けなければと自戒している。

思想・経済・戦争等を論ずるなかから、進歩的史観、司馬史観、自由主義史観等々、歴史観もいろいろあるが、人一人一人が自由に持つものであるべきであり、他人に強制すべきものでもない、特にまだ価値判断のできない小中高校生に特定の史観を強いるべきものではなく、子どもや孫たちの教科書を見てきたが、現状の教科書で充分であると考える。

今回の加来先生の見解も、歴史の裏話を聞かせていただいたということで、引き続き、大河ドラマ・歴史秘話ヒストリア等のTVを楽しみながら日本の歴史に思いを馳せてみたいと思っている。

（２）「現代日本政治と政局の行方」　　岩井奉信　日本大学法学部教授

当然、日大問題の弁解から始まった。立場的に難しい位置にあるのだろうが、出席者の多くの期待は、間違いなくその方向の話であったと思う。

結果、時局講演部分についても、メディア報道の域を出ず、自分自身が描く「日本の政治はかくあるべき」との強い時局への提言につながるような話もなく、内部告白的な、話が聞きたかった、残念！と思った議員が多かったのではと思う。

巨大組織の中で発生した事件が、思いもよらない方向に拡大、最高責任者が姿を現さず未だに明快な説明・責任が示されていない。特に、超保守的な組織の中で、報復人事の可能性が心配される教職員組合が抜本的な改革と最高責任者の辞任を求める要求書を提出、750名(44.6%)を超える賛同署名がある状況の中で、どの様な立ち位置で、どう対応されてきたのか、話すべきであったのではと思う。

体育系にとっては、日常茶飯事のことで、大きな問題として対応するメディアや野次馬的な大衆が間違っているとでも判断しているのだろうか？いずれにしても自分自身の立場や考え方を示すべきであったと思う。

日常の出来事や政治に至るまで、批判・評価をし、自分自身の見解を示し，教示する立場にいる教授が、自分の所在する大学の事件にどう対処したのか、しなければならなかったのか、明確にできずに、日本の政治の在り方を論ずる姿勢が滑稽に思う。